

品川支部

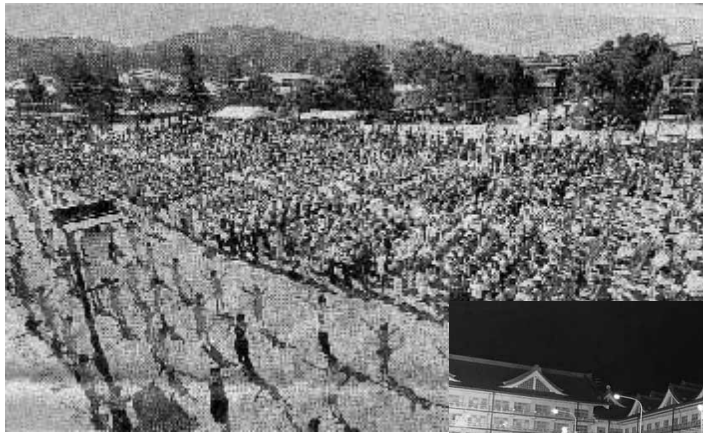
令和元年8月1日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

8月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

子どもおぢば帰り 今年も大勢です

今年も子どもおぢば帰りが始まりました
来年からは期間を十日から八日にして、より充実したイベントになる
予定です。プールサイド行事から夜のパレードに変わって約四十年
今度は又、どんなイベントになるのか今から楽しみ。
参加した思い出を噛みしめながら、最後の夜のパレードを楽しみます。



合同お供え演奏

見納めの夜のパレード

☆支部行事のお知らせ

・支部例会八月三十日(二頁参照)

・神名流し

子供おぢばがえり期間で今月は有りません

・在宅センターひのきしん

八月二十八日(水)午前九時半〜十一時

・教区ひのきしん

担当は日本橋組です宜しくお願い致します

・幹事会特別月

九日、場所については後日連絡致します

☆教務支庁からのお知らせ

・二れつ会扶育についての変更

令和二年度の願書受付は大学・高校共に教区受付
の期間が十月一日から十月三十日までと統一され
ます。

又、終了後の本部勤務が今より延長されるとのこと
ですが、詳細はわかり次第、紙面でもおしらせ致し
ます。

・婦人会、百十周年に向け決起大会

皆さんにご協力頂いております決起大会も後半に
入り品川支部内の二つの会場の合計は三百七十九
名の参加を頂きました。

まだの会員の方は別会場にて是非ご参加下さい。
会場につきましては教会にお問い合わせ下さい。

・天理教校学園高校、来年入学者まで

昨今の少子化等、諸事情で教校は
来年度の入学生を最後に生徒の募集
を終了することになりました。

明治三十三年四月に天理教校を
教育機関の母体として開設して以来
数多くの学校を設立してありますが
中にも、昭和四十九年二月に天理教
校学園の設立認可を頂いた後、天理
教校付属高等学校を同年四月に開校、
平成五年から、女子生徒の受け入れ、
平成十七年に天理教校親里高等學校
と統合し天理教校学園高等学校とし
て開校となった。

マーチングバンド・雅楽等、数多くの実
績を残しながら、最後の入学される
生徒の卒業する、五年後には永い歴史
を閉じることになる。

・学生担当委員会から

今年も『真夏の勉強会』が八月十七
日十時から十五時、教務支庁で参加
費三百円で行われます。

夏休みの宿題なんかも大勢の学生のお
兄さんお姉さんが見てくれますよ
これで宿題もバッチリです

・真柱様近況

ご容体も順調にご回復、六月の会食で
は食事もお召し上がったとのこと
おさつげも学校、修養科等、拝戴
出来ているとのことです

拠点教会	4日号	11日号	18日号	25日号
日本橋	直送	直送	直送	直送
本 荏	直送	直送	直送	直送
都 南	直送	直送	直送	直送
三ツ木	直送	直送	直送	直送
水豊田	直送	直送	直送	直送

時報手配り八月予定

我々はお互いの間にしても、お客様にご馳走を出す段に慣れば、決して自分が出す日々に食べている物を出すような事はない。必ず何か珍しい物を馳走しようと考へるが、同じ馳走をするにしてもお客様に美味しく食べてもらえうような相手の口に合うよう心がける。ところが人によって甘い物が好き、辛い物好きという具合に好みがあり、お客様の口に合うようにするのは、なかなか難しいものである。けれどもどうせご馳走するのなら、その人の好き嫌いを考えて、なるべく好きな物を選ぶ。



父からの遺言
平林 典道

心の誠を供える

酒の好きな人にはお酒、魚の好きな人には魚、肉の好きな人には肉、子供等にはお菓子というふうにも変えていかねばならない。これと同じように、我々が神様に受け取って、魚の好きな人には魚、肉の好きな物を持っていかねばならない。それには我々自身が塩加減をして、味を付け、自分が食べてみて、これならば神様もお好きだろうと充分念を入れ、持っていかねばならない。それが、嵩の大きいばかりが良いと言えない。たとえ嵩はなくても、上手い、美味しい物をこしらえる。その心を受け取ってもらうのである。神様は何もご馳走したからといって、喜ばれるものではないと思う。心を供える、心の誠を供えてこそ神様は喜んでくれるのである。

我々はお馳走に呼ばれて行っても、喜んで迎えてくれれば、同じご馳走でも非常に気持ちよく美味しく食べられるが、相手歓迎もせず義理で呼ばれた時には、同じご馳走でも美味しく食べられない。このように、我々の実生活においても、相手をする方の心持ちによって、お客様の心持地がかわるのである。神様にお供えするにしてもこれらと同じで、お供えをする方の人間の心が不足や不純であってはならない。こちらで塩加減を上手く味付けしたものを神様に供えたいというのには、つまり自分の心が本当に喜んで物など供えることが出来るか、或はこれを供えても後に惜しみや案じ心がないかと充分に考える必要がある。

心に喜びを持って、すべての物を神様にお供えするようになければならない。これでこそ神様に十分受け取ってもらえるのである。にちにちに心つくしたものだねを、神がたしかにうけとりていっている。しんじつに神のうけとりものだねは、いつになりてもくさるめわなし。だんだんとこのものだねがはいえたなら、これまたいいのこふきなるそや。

鶴平分教会長



お詫び
六月号のこの私の信仰のコーナーで本品分教会長の中澤光郎先生のお名前が掲載されてお詫びして訂正致しました。

品川支部例会

令和元年8月30日 (金)
11時開始

場所 本品分教会

(品川区東大井三丁目7-10)

内容 おつとめよろづよ八首 八下り目
東京教区、支部連絡事項
当該教会長中澤先生 挨拶
昼食の用意頂いてます

* 各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)

